

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 3208 号	氏名	久保田 怜美
論文審査担当者	主査 砂川 正隆 教授 副査 本田 一穂 教授 副査 松山 高明 教授		
<p>論文題名 : Hippocampus and parahippocampus volume reduction associated with impaired olfactory abilities in subjects without evidence of cognitive decline</p> <p>掲載雑誌名 : Frontiers in Human Neuroscience vol.14、Article 556519、2020 年掲載</p> <p>嗅覚障害のある高齢者は、認知症の前段階である軽度認知障害を発症しやすいとされる。また、嗅覚障害は、アルツハイマー型認知症やパーキンソン病の初期徴候であることも知られている。そのため、嗅覚検査は、認知症早期のスクリーニング検査として注目されている。しかしながら、高齢者での嗅覚認知機能の低下は、脳のいずれの領域の変化に起因するかは明らかではない。そこで久保田らは、全般的な認知機能が正常の高齢者群 30 名と若年者群 27 名を対象とし、嗅覚検査と磁気共鳴画像による局所脳体積測定とを行い、嗅覚認知機能と嗅覚関連領域の脳体積との関連性を検討した。その結果、高齢者群において、嗅覚認知機能の低下と左海馬の体積減少、嗅覚認知機能の低下と左海馬傍回の体積減少、それぞれの関連性が明らかとなった。記憶を担う左海馬と前頭葉へ投射する左海馬傍回の体積減少が嗅覚認知機能の低下に関与することを示唆するものである。本論文は本学大学院学位論文（博士）審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。</p>			

(主査が記載、500 字以内)